

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦) (公表可否)	職名	所属
タケハ マサキ 武部 正明	男	非公表	准教授	人間文化学部人間文化学科 人間文化研究科臨床心理学専攻
取得学位称号	博士(教育学)	専門分野	発達障害、知的障害、臨床発達心理学、コミュニティ支援	
学 歴	1995年	4月	早稲田大学第一文学部 入学	
	1999年	3月	早稲田大学第一文学部哲学科心理学専修 卒業	
	1999年	4月	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻 入学	
	2001年	3月	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻 修了	
	2018年	4月	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科発達支援講座 入学	
	2022年	3月	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科発達支援講座 修了(教育学博士)	
実 務 経 験	2001年	4月	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 心理職	
	2013年	10月	相模原市役所 心理職	
	2021年		相模女子大学人間社会学部人間心理学科非常勤講師(兼任、現在に至る)	
	2022年	4月	山梨英和大学人間文化学部人間文化学科 准教授 山梨英和大学大学院人間文化研究科 准教授(兼任)	
受 賞 歴				
所 属 学 会	2006年	8月	日本発達心理学会	
	2008年	4月	日本児童青年精神医学会	
	2016年	5月	日本LD学会	
	2018年	5月	日本発達障害学会	
	2021年	7月	日本特殊教育学会	
	2021年	7月	日本発達障害支援システム学会	
特 免 資 許 許 格 等 ・ ・	2003年	4月	臨床心理士(10994号)	
	2007年	4月	臨床発達心理士(01718号)	
	2019年	2月	公認心理師(第10144号)	
e-mail	非公表			

目 次

○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

○添付資料

完全リスト(研究実績、競争的資金採択課題、学会等発表・役員参加、共同研究・受託研究の実績、
学内委員会・作業部会活動実績)

サンプル(教育能力、代表的なシラバス、教育改善活動、大学院生指導、アドバイザー活動実績、
後進育成活動実績、社会貢献活動)

評価結果(教育能力に対する評価、研究能力に対する評価)

専門的成果のエビデンス

教育業績

教育理念、方針、方法	<p>大学での学びは、学問を修めるだけでなく、学生が自身のライフキャリアをプランニング、コーディネートしていくための重要な機会であると考えている。心理学を学ぶことは、必ずしも対人援助職や研究者を目指さずとも、自己理解というライフキャリアを育む上での土台を育む貴重な機会及び材料になる。授業や書物等から得た理論や知識を学生が自身の日々の生活や活動と結びつけ、ふり返ることができるような授業を行うこと、対話等の相互交渉による意見交換を行うことなどから、自身の学びを深めてもらいたいと考えている。</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例</p> <p>毎回の授業においては、理論と実践が結びつくよう実例を挙げること、公開されている法令や施策、動画なども活用するようにしている。また、各回の「事後課題」で記載された質問や感想の中から全体へ還元できるものをその次の授業で紹介し、解説している。少人数の授業では、各回短い時間でもグループワーク及びプレゼンテーションを行うこと、一定数の受講者数の授業の場合でも個人ワークと発表の時間を可能な範囲で設けている。一方的な伝達ではなく、相互交渉を行いながら理解を深めてもらえるように心がけている。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等</p> <p>公認心理師や心理系の学生向けに「公認心理師カリキュラム準拠 福祉心理学」共著(山中克夫、四ノ宮美恵子、宮本信也編、医歯薬出版株式会社)「第10章 発達障害児者」を執筆した。</p> <p>また、特別支援教育(通級指導教室等)を担当する教員向けに「中学校通級指導教室を担当する先生のための指導・支援レシピ 今日から役立つ! 基礎知識&指導アイデア」共著(柘植雅義 監修/小林靖編)「これからの通級指導教室の展望7 専門家支援チームと連携支援」を執筆した。</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等</p> <p>特になし</p>
担当授業科目	<p>「心の健康教育に関する理論と実践」「臨床心理実習Ⅱ」(大学院)</p> <p>「心理学概論Ⅱ」「コミュニティワーク」「心理学実験」「専門ゼミナール」「基礎ゼミナール」(学部)</p>
代表的シラバス	<p>「心理学概論Ⅱ」</p> <p>心理学は、こころの働きや仕組みを科学的に解明しようとする学問です。心理学がどのように発展し、心をどのように捉えてきたのかについて理解を深められるよう講義します。この授業では、心理学の様々な領域の中でも主に発達、人格、動機づけやコミュニケーション、臨床心理学に関する様々なテーマを概観し、心理学の基礎的な知識や理論について解説します。</p> <p>心理学概論Ⅰと併せて学ぶことで、心理学の全体像をつかむことができます。この授業を通して、日常の様々な出来事や人間関係を心理学的に捉える視点を身に着けられるよう解説していきます。</p>
教育改善活動	
教育能力に対する評価	<p>(1)学生による授業評価</p> <p>「わかりやすい言葉で、実際の体験を含め説明してくれるので、内容が頭に入りやすく、興味を持って学ぶことができた。」(大規模講義)、「学生同士で話し合い、発表することができたのでより深い学びへと繋がることができた。」(小規模講義)というような評価でしたが、ICTの活用やよりわかりやすいユニバーサルな授業へと改善をする必要もあると考えています。</p> <p>(2)同僚教員等による授業評価</p> <p>本学では教員による相互評価は行われていないです。</p>

研究業績

研究の特徴	<p>自閉スペクトラム症(ASD)児者の適応行動、特に日常生活スキルの発達と支援、並びに関連する要因(認知機能、ASD症状など)の検討を中心に行っている。また、ASD児者の余暇活動支援(ASD児者同士のコミュニティ形成の支援)とその効果に関する研究にも取り組んでいる。さらに、知的障害・発達障害者の生涯学習プログラムの開発にも関与している。</p> <p>高齢者と障害者に関する包括的な支援体制の構築についても関心がある。</p>
研究経歴	<p>2009年 ASD者の仲間関係・余暇活動支援に関する研究について、(現在は)相模女子大学の日戸由刈教授らとともに取り組み、現在に至る。</p> <p>2018年 ASD者の適応行動に関する研究の一環として、その一部を博士論文としてまとめた(東京学芸大学 藤野博研究室として)。引き続き、藤野教授とともに取り組んでいる。</p> <p>2020年 文部科学省委託事業・「知的障害・発達障害者の生涯学習プログラムの開発(相模原市及び相模女子大学日戸研究室・狩野研究室)」に共同研究者として参加し、現在に至る。</p>
研究実績	<p>(1)著書</p> <p>「公認心理師カリキュラム準拠 福祉心理学」共著(山中克夫、四ノ宮美恵子、宮本信也編、医歯薬出版株式会社)「第10章 発達障害児者」</p> <p>「中学校通級指導教室を担当する先生のための指導・支援レシピ 今日から役立つ! 基礎知識&指導アイデア」共著(柘植雅義 監修/小林靖編)「これからの通級指導教室の展望7専門家支援チームと連携支援」</p> <p>(2)学術論文</p> <p>武部正明、日戸由刈、藤野博(2021)「成人期から支援を開始した知的発達に遅れのない自閉スペクトラム症者の就労後の適応行動-職業スキルと日常生活スキルの追跡調査-」(発達障害研究第43巻1号, p108-119.)</p> <p>日戸由刈, 玉井創太, 原郁子, 武部正明, 藤野博(2021)「自閉スペクトラム症児の知的水準の区分の安定性に関する幼児期後半から小学校期にかけての縦断的研究」(発達障害研究第43巻3号 p328-337.)</p> <p>武部正明、藤野博、日戸由刈(2020)「知的発達に遅れのない学齢期の自閉スペクトラム症児の適応行動の実態と関与する要因の検討:日常生活スキルの問題を中心に」(学校教育学研究論集第41号, p45-55.)</p> <p>武部正明・藤野博(2018)「自閉症スペクトラム障害児者の日常生活スキルに関する研究動向と課題」(東京学芸大学紀要 総合教育科学系,69(2), p285-297.)</p> <p>玉井創太、武部正明、日戸由刈、白馬智美、田中里実(2016)「知的遅れのない自閉症スペクトラム障害幼児の精神医学的ニーズに関する検討」(臨床発達心理実践研究第11巻第2号, p164-172.)</p> <p>武部正明、日戸由刈、玉井創太、白馬智美(2013)「学齢期のアスペルガー症候群の人たちの身辺自立獲得に関する予備研究-獲得の遅れの有無、および遅れをもたらす要因の検討-」(リハビリテーション研究紀要第23号, p31-35.)</p> <p>萬木はるか、武部正明、日戸由刈、三隅輝見子、本田秀夫(2012)「自閉症スペクトラム障害の学齢児のための『ひとりだちの教室』-家事分担を鍵とした社会参加の促進-」(LD研究第21巻第4号, p470-478.)</p> <p>日戸由刈、萬木はるか、武部正明、山口裕二、大場 龍男、三隅輝見子、本田秀夫(2011)「アスペルガー症候群の人たちの就労困難に対する早期介入:介入モデルの考案と『就労準備講座』実践の試み」(精神科治療学第26巻06号, p.779-787.)</p>

研究実績	<p>日戸由刈、萬木はるか、武部正明、本田秀夫(2010)「アスペルガー症候群の学齢児に対する社会参加支援の新しい方略ー共通の興味を媒介とした本人同士の仲間関係形成と親のサポート体制づくりー」(精神医学52(11), p1049-1056.)</p> <p>日戸由刈、萬木はるか、武部正明、片山知哉、本田秀夫(2009)「4つのジュースからどれを選ぶ?ーアスペルガー症候群の学齢児に集団で「合意する」ことを教えるプログラム開発ー」(精神科治療学第24巻4号, p493-501.)</p> <p>(3)その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)</p> <p>(翻訳)「対人プロセスと心理的諸問題ー臨床社会心理学の視座」 C.Segrin著/田中健吾監訳「第7章 摂食障害」</p>
競争的資金採択課題	<p>・日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援「自閉スペクトラム症児者の適応行動の発達と関与する要因の検討」(2022年8月 - 2024年3月)</p>
学会等発表・役員参加	<p>2023年 3月 武部正明・日戸由刈・藤野博(2023)「知的発達に遅れのない学齢期の自閉スペクトラム症児における適応行動ーその5:縦断的な実態調査による通常の学級在籍児と特別支援学級在籍児の比較ー」(日本発達心理学会第34回大会ポスター発表)</p> <p>2022年 12月 武部正明・藤野博・日戸由刈(2022)「情緒障害通級指導教室に通う ASD 等発達障害のある小学生・中学生の適応行動に関する実態調査:情緒障害通級指導教室と言語障害通級指導教室における比較」(日本発達障害学会第57回研究大会ポスターセッション)」</p> <p>2022年 10月 日戸由刈・武部正明・狩野晴子・岩本健吾・今藤孝拓・山根美月・下斗米若菜・村上理・川口信雄・藤野博(2022)「大学と行政の連携・協働を通じたインクルーシブな生涯学習プログラムの開発・その2 共生社会の実現に向けて、当事者が主体となって地域に発信し、交流や仲間づくりを持続するために」(日本LD学会第31回大会自主シンポジウム)</p> <p>2022年 3月 武部正明、日戸由刈、藤野博、米田英嗣(2022)「知的発達に遅れのない学齢期の自閉スペクトラム症児における適応行動ーその4: 早期支援を受けている小学生の日常生活スキルと社会性・コミュニケーションとの関連ー」(日本発達心理学会第33回大会ポスター発表)</p> <p>2022年 3月 企画:日戸由刈、話題提供者:武部正明、米田英嗣、指定討論者:綿貫愛子、大井学(2022)「学齢期から青年期への「移行期」におけるASD者の心理的課題:認知機能の発達と精神的健康および適応行動」(日本発達心理学会第33回大会会員企画ラウンドテーブル)</p> <p>2021年 3月 武部正明、日戸由刈、藤野博(2021)「知的発達に遅れのない学齢期の自閉スペクトラム症児における適応行動ーその3: 身辺自立や家事等の日常生活スキルの実態と影響する要因の検討ー」(日本発達心理学会第32回大会ポスター発表)</p> <p>2021年 3月 日戸由刈、藤野博、武部正明、米田英嗣、大井学(2021)「学齢期の ASD 児同士で雑談は楽しめるのか? (2)」(日本発達心理学会第32回大会ポスター発表)</p> <p>2020年 3月 武部正明、日戸由刈、藤野博(2020)「知的発達に遅れのない学齢期の自閉スペクトラム症児における適応行動ーその2: 幼児期から診断および支援を受けている小学生群の実態ー」(日本発達心理学会第31回大会ポスター発表)</p> <p>2020年 3月 日戸由刈、藤野博、武部正明、米田英嗣(2020)「学齢期のASD児同士で雑談は楽しめるのか?ー「ある・ある!タイム」の会話分析を通じてー」(日本発達心理学会第31回大会ポスター発表)</p> <p>2019年 3月 武部正明、日戸由刈、藤野博(2019)「知的遅れのない学齢期の自閉スペクトラム症児における適応行動ーその1: 学齢期前半(小学生)と後半(中学生・高校生)の比較ー」(日本発達心理学会第30回大会ポスター発表)</p>

学会等発表・役員参加

2019年	3月	企画：藤野博、話題提供者：日戸由刈、武部正明、綿貫愛子、指定討論者：米田英嗣、大井学「自閉スペクトラム症の人たち同士の小集団の可能性と課題—臨床家の視点と当事者の視点からみる社会参加と精神的健康に与える効果—」(日本発達心理学会第30回大会自主シンポジウム)
2018年	3月	武部正明、日戸由刈、藤野博(2018)「自閉スペクトラム症者の日常生活スキルにかんする予備的検討—IQとの比較および職歴の有無による差異—」(日本発達心理学会第29回大会ポスター発表)
2018年	3月	企画：藤野博、話題提供者：日戸由刈、武部正明、米田英嗣、指定討論者：大井学「自閉スペクトラム症の人たち同士の共感—非定型的な社会性の発達に関する検討—」(日本発達心理学会第29回大会自主シンポジウム)
2017年	10月	企画：日戸由刈、小林靖 話題提供者：日戸由刈、水谷朱里、武部正明、川口信雄、指定討論者：高木一江(2017)「発達障害の人たちに対するライフスキル支援の実際—支援後のフォローアップを通じて見えてきた、さらなる課題—」(日本LD学会第26回大会自主シンポジウム)
2017年	3月	武部正明、渡辺智興、志村淳子、金森優香、宇田川真美、山口正人(2017)「発達障害のある学齢児を対象としたグループ支援の実践—「生活スキル」と「仲間づきあい」を軸とした成人期を見据えた支援プログラム—」(日本発達心理学会第28回大会ポスター発表)
2016年	10月	企画：日戸由刈、話題提供者：武部正明、日戸由刈、水谷朱里、川口信雄、指定討論者：小林靖、高木一江(2016)「発達障害の人たちのライフステージを見通した支援～ライフスキル獲得の実態と支援の実際～」(日本LD学会第25回大会自主シンポジウム)
2016年	3月	木立 伸也、武部正明、萬木 はるか、日戸 由刈(2016)「定型発達幼児の基本的な生活習慣にかんする予備的検討—ASD幼児との比較検討に向けて—」(日本発達心理学会第27回大会ポスター発表)
2015年	3月	木立 伸也、武部正明、萬木 はるか、日戸 由刈(2015)「発達障害幼児の基本的な生活習慣にかんする予備的検討 その1」(日本発達心理学会第26回大会ポスター発表)
2013年	9月	玉井創太、武部正明、日戸由刈(2013)「幼児期に専門機関を受診した自閉症スペクトラム障害の人たちの追跡調査：この10年間で改善された点、残された課題」(日本臨床発達心理士会第9回全国大会実践研究発表)
2013年	3月	武部正明、日戸由刈、山口朋子、玉井創太、白馬智美(2013)「学齢期の自閉症スペクトラム障害の人たちの身辺自立獲得に関する予備研究」(日本発達心理学会第24回大会ポスター発表)
2013年	3月	日戸由刈、武部正明、玉井創太、山口朋子(2013)「幼児期に専門機関を受診した自閉症スペクトラム障害の人たちの15年間の追跡調査：5歳時点で境界知能を示す子どもたちに特有なニーズの存在」(日本発達心理学会第24回大会ポスター発表)
2012年	11月	山口朋子、日戸由刈、武部正明、長嶺麻香、三隅輝見子(2012)「自閉症スペクトラム障害の人たちに対する「自主活動サポートプログラム」の試み—仲間関係の維持に向けた保護者のサポート体制づくり—」(第53回日本児童青年精神医学会総会ポスター発表)
2012年	9月	武部正明、玉井創太、三隅輝見子(2012)「自閉症スペクトラム障害の心理アセスメントに必要な視点—療育上対応に苦慮する事例の分析を通して—」(日本臨床発達心理士会第8回全国大会実践研究発表)
2011年	11月	日戸由刈、平野亜紀、長嶺麻香、武部正明、三隅輝見子、清水康夫(2011)「中学生・高校生になって発達精神科を受診した自閉症スペクトラム障害の人たちに対する心理士からの支援のあり方—本人に対する主体的な相談を促すオリエンテーション技術の開発—」(第52回日本児童青年精神医学会総会ポスター発表)

<p>学会等発表・役員参加</p>	<p>2010年 10月</p>	<p>日戸由刈、武部正明、萬木はるか、本田秀夫(2010)「アスペルガー症候群の人たちの就労困難に対する早期介入—高校生のための『就労準備講座』プログラムの開発」(第51回日本児童青年精神医学会総会ポスター発表)</p>
<p>共同研究の実績</p>	<p>2008年 11月</p>	<p>萬木はるか、武部正明、日戸由刈、本田秀夫(2009)「広汎性発達障害の学齢児のための『ひとりだちの教室』—家事分担を鍵とした社会参加と仲間づくりの促進—」(第49回日本児童青年精神医学会総会ポスター発表)</p>
<p>大学院生指導</p>	<p>2007年 10月 11月</p>	<p>日戸由刈、清水康夫、本田秀夫、片山知哉、萬木はるか、武部正明、岩佐光章、今井美保(2007)「アスペルガー症候群の社会不適応に対する介入のあり方—早期からの予防的介入、時宜を得た危機介入」(第48回日本児童青年精神医学会総会ポスター発表)</p>
<p>研究能力に対する評価</p>	<p>2010年 10月</p>	<p>財団法人明治安田こころの健康財団研究助成「アスペルガー症候群の人たちの就労困難に対する早期介入—就労困難の要因分析と、高校生のための『就労準備講座』の開発」(日戸由刈、武部正明、萬木はるか、山口裕二、大場龍男、三隅輝見子、本田秀夫)</p>
		<p>2022年度より、山梨英和大学大学院生に対する授業(「心の健康教育に関する理論と実践」)を担当、支援事例に関するスーパーヴィジョンを行った。</p>
		<p>・これまで臨床での実践を中心に学会報告ならびに研究論文としてまとめてきた(日本発達心理学会、日本発達障害学会、日本児童青年精神医学会など)。それらの一部を2021年度に学位論文としてまとめたところである。</p> <p>・2022年度は、科学研究費を獲得することができたため、今後、より研究発表や論文作成に取り組み、研究能力の向上を図る。</p> <p>・これまでの取組みを評価していただく形で、公認心理師や特別支援教育を担う教師向けの教科書の執筆依頼を受け、作成に携わっている。また、相模原市と相模女子大学が受託した文部科学省の事業(「知的障害・発達障害者の生涯学習プログラムの開発」)の成果について、共同研究者として携わっている。今後は、開発したプログラムの普及啓発に取り組む。</p>

サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績	2022年度 図書館運営委員会																												
アドバイザー活動実績	2022年度 基礎ゼミナール13名、専門ゼミナール5名を担当した																												
後進育成活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県立特別支援学校 外部専門家(毎月、スーパーヴァイズを実施) ・日本臨床心理士会障害者福祉委員会 委員(毎年、定例の研修会の企画・運営) ・日本臨床発達心理士会神奈川支部 支部長(支部活動、支部研修会の管理・運営等) ・日本公認心理師協会福祉分野委員会 委員(高齢者領域及び発達障害領域の研修会企画・運営等) 																												
社会貢献活動	(1)講演会(抜粋)	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right; width: 10%;">2022年</td> <td style="text-align: right; width: 10%;">12月</td> <td>相模原市子育て支援センター保健師研修「発達障害の基礎知識-発達特性のある母親への支援-」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2019年</td> <td style="text-align: right;">8月</td> <td>相模原市福祉型児童発達支援センター職員研修「保護者支援の重要性と支援プログラムの考え方ー目的に応じた、プログラムの設定の仕方」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2019年</td> <td style="text-align: right;">11月</td> <td>相模原市青少年教育カウンセラー会議(研修)「発達障害者支援センターの役割と連携」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2018年</td> <td style="text-align: right;">3月</td> <td>相模原市特別支援教育研究会難聴・言語・サポートルーム専門部研修「保護者支援の考え方」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2018年</td> <td style="text-align: right;">3月</td> <td>相模原市福祉研修センター主催就労援助セミナー「就労援助に役立つアセスメントー実践編ー」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2018年</td> <td style="text-align: right;">1月</td> <td>相模原市福祉研修センター主催就労援助セミナー「就労援助に役立つアセスメントー基礎編ー」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2017年</td> <td style="text-align: right;">12月</td> <td>相模原市役所保健師向け研修「発達障害の早期発見」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2017年</td> <td style="text-align: right;">8月</td> <td>相模原市田名地区小中高連携教育推進協議会合同研修会「発達障害のある児童・生徒の理解と対応ー成人期を見据えて、学齢期に求められることー」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2017年</td> <td style="text-align: right;">2月</td> <td>相模原市立療育センター陽光園(福祉型児童発達支援センター)父親懇談会「発達障害の基礎知識～自閉症・知的障害を中心に～」</td> </tr> </table>	2022年	12月	相模原市子育て支援センター保健師研修「発達障害の基礎知識-発達特性のある母親への支援-」	2019年	8月	相模原市福祉型児童発達支援センター職員研修「保護者支援の重要性と支援プログラムの考え方ー目的に応じた、プログラムの設定の仕方」	2019年	11月	相模原市青少年教育カウンセラー会議(研修)「発達障害者支援センターの役割と連携」	2018年	3月	相模原市特別支援教育研究会難聴・言語・サポートルーム専門部研修「保護者支援の考え方」	2018年	3月	相模原市福祉研修センター主催就労援助セミナー「就労援助に役立つアセスメントー実践編ー」	2018年	1月	相模原市福祉研修センター主催就労援助セミナー「就労援助に役立つアセスメントー基礎編ー」	2017年	12月	相模原市役所保健師向け研修「発達障害の早期発見」	2017年	8月	相模原市田名地区小中高連携教育推進協議会合同研修会「発達障害のある児童・生徒の理解と対応ー成人期を見据えて、学齢期に求められることー」	2017年	2月	相模原市立療育センター陽光園(福祉型児童発達支援センター)父親懇談会「発達障害の基礎知識～自閉症・知的障害を中心に～」
2022年	12月	相模原市子育て支援センター保健師研修「発達障害の基礎知識-発達特性のある母親への支援-」																											
2019年	8月	相模原市福祉型児童発達支援センター職員研修「保護者支援の重要性と支援プログラムの考え方ー目的に応じた、プログラムの設定の仕方」																											
2019年	11月	相模原市青少年教育カウンセラー会議(研修)「発達障害者支援センターの役割と連携」																											
2018年	3月	相模原市特別支援教育研究会難聴・言語・サポートルーム専門部研修「保護者支援の考え方」																											
2018年	3月	相模原市福祉研修センター主催就労援助セミナー「就労援助に役立つアセスメントー実践編ー」																											
2018年	1月	相模原市福祉研修センター主催就労援助セミナー「就労援助に役立つアセスメントー基礎編ー」																											
2017年	12月	相模原市役所保健師向け研修「発達障害の早期発見」																											
2017年	8月	相模原市田名地区小中高連携教育推進協議会合同研修会「発達障害のある児童・生徒の理解と対応ー成人期を見据えて、学齢期に求められることー」																											
2017年	2月	相模原市立療育センター陽光園(福祉型児童発達支援センター)父親懇談会「発達障害の基礎知識～自閉症・知的障害を中心に～」																											

社会 貢 献 活 動	2016年	12月	神奈川県立麻生養護学校サタデーセミナー(保護者向け)「思春期の支援のポイントと親の役割」	
	2016年	11月	日本保育協会新潟県支部主催研修「気になる子どもの対応と理解ー発達障害支援の考え方ー」	
	2016年	1月	神奈川医療少年院 保護者教室「お子さんが‘一人前の大人’になるためにー今、親ごさんに大切にしてほしいことー」	
	2015年	11月	神奈川医療少年院 職員研修「発達障害の理解と対応」	
	2014年	5月	神奈川医療少年院 保護者教室「お子さんが‘一人前の大人’になるためにー今、親ごさんに大切にしてほしいことー」	
	(2)出前講座			
	(3)公開講座			
	2021年	2月	相模女子大学公認心理師セミナー「おとなの心理的支援」	
	2017年	2月	桜美林大学臨床心理センター主催公開講座「発達が気になる子どもの保護者支援セミナーー子育ての工夫と社会資源を知ろうー」	
	(4)学外審議会・委員会等			
	2012年	6月	一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構 日本臨床発達心理士会神奈川支部 広報担当(2015年6月まで)	
	2015年	5月	一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構 日本臨床発達心理士会神奈川支部 事務局長(2022年5月まで)	
	2017年	5月	一般社団法人日本臨床心理士会障害者福祉委員会 委員(現在に至る)	
	2022年	4月	山梨県立特別支援学校 外部専門家 心理士(現在に至る)	
	2022年	6月	一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構 日本臨床発達心理士会神奈川支部 支部長(現在に至る)	
	2022年	6月	日本LD学会 編集委員(現在に至る)	
	2022年	10月	一般社団法人 日本公認心理師協会 福祉分野委員会 委員(現在に至る)	
	(5)その他			
	2022年	6月	令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業 地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」(相模原市「インクルーシブ・プログラム開発事業」) コーディネーター (2023年2月まで)	

成果と目標

専門的成果	<p>①知的発達に遅れのない自閉スペクトラム症児者の適応行動に関する研究に取り組んでいる。成果の一つとして、成人期に不適応が顕在化したことで専門機関に相談に繋がりと、支援を開始することで就労することができた場合でも(企業等への障害者就労)、日常生活スキルに課題を残すこと、余暇活動や仲間関係の構築に課題があることを標準化されたアセスメントツールを用いて示したことである。障害者に対する就労支援が充実し始めているが、成人期のアウトカム全体を見据えて日常生活スキルや余暇活動等への支援も必要であることが示唆された。</p> <p>②同様に、日常生活スキルや仲間関係等の課題は成人期に特有なのか、学齢期にも共通する課題かどうかを検証した。知的発達に遅れのないASD児者の場合、従来から指摘されている社会性やコミュニケーションに加えて、日常生活スキルに課題があることを示した。一方、幼児期の療育支援、学齢期の特別支援教育(特別支援学級や通級指導教室での指導等)では、コミュニケーションの改善を主眼としており、日常生活スキルに対しても早期からの支援の必要があることが示唆された。</p> <p>③幼児期後半に実施した知能検査で境界知能を示すASD児について、学齢期に追跡調査を行った結果、正常知能群や知的障害群に比べて知的水準が変化する割合が有意に多いことを示した。臨床的には、就学前に境界知能であった場合、保護者が福祉サービスの利用や就学先の選択に迷うケースが多く、その背景に知的水準の不安定さという一因が想定されることが示唆された。</p>
専門的目標	<p>①自閉スペクトラム症児について、まず小学校期から中学校期における日常生活スキル等の適応行動の発達経過を明らかにすることである。定型発達児の場合、身辺自立は年齢と比例して獲得されていくが、家事は青年期に一時的に低下することが指摘されている。仲間関係の等の社会性についても自律性と相互依存性のバランスを取りながら発達していくとされているが、自閉スペクトラム症児の場合、その経過を縦断的に調査した報告は少ない。</p> <p>②次に、自閉スペクトラム症児者の適応行動に関与する要因を明らかにすることである。とりわけ我々の報告では、日常生活スキルの各領域で関与する要因に差異があることが示唆されており、その点を検証する必要がある。要因の差異が明らかになることで、福祉や教育における支援のあり方を見直すことにも繋がると考える。</p> <p>③高等特別学校でキャリア教育を受け、就労が継続している成人の知的障害者・発達障害者のアウトカムとその要因について分析する。就労するだけでなく、就労を継続するための要因を明らかにすることで、新たな支援の方向性を見出すことに繋がると考える。</p>

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------